

刊行に寄せて



文部科学大臣

林 芳 正

文部科学省では、教育、科学技術・学術、スポーツ、文化芸術における施策の新しい動きについて、広く国民の皆様を紹介するために、「文部科学白書」を刊行しています。

平成29年度文部科学白書では、特集として、「社会的・経済的価値をはぐくむ文化政策の展開」「学校における働き方改革」の二つのテーマを取り上げました。

近年、我が国の文化行政を取り巻く環境は大きく変化してきています。特集1「社会的・経済的価値をはぐくむ文化政策の展開」では、新・文化芸術基本法の成立と文化芸術推進基本計画（第1期）の策定や、新・文化庁の構築に向けた機能強化と本格移転に向けた取組、文化財保護制度の改革、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた文化プログラムの取組等について紹介しています。

今日の学校を取り巻く環境の複雑化・多様化を背景として、学校に求められる役割が拡大する中で、教師の長時間勤務の実態は看過できない深刻な状況になっており、質の高い学校教育を持続発展させるためには、教師の業務負担の軽減を図ることが喫緊の課題となっています。特集2「学校における働き方改革」では、学校における働き方改革について、教員勤務実態調査の速報値の結果等を示しつつ、中央教育審議会の検討状況やそれを踏まえた文部科学省の取組について紹介しています。併せて、先進的な地方公共団体で取り組んでいる「学校における働き方改革」についての事例を紹介しています。

また、政府では「教育再生」を重要課題として位置付け、取組を推進しています。本白書では、年次報告に先立ち「教育再生の着実な推進」の項目を設けました。主な教育改革の取組として、学習指導要領の改訂、高大接続改革の動向を紹介するとともに、教育振興基本計画、教育再生実行会議及び中央教育審議会における審議状況等について紹介しています。

教育再生、科学技術イノベーション、スポーツ・文化の振興は、「人づくり革命」や「生産性革命」において中核を担うものです。私も、「Society 5.0に向けた人材育成に係る大臣懇談会」等の開催を提案し、Society 5.0の社会像を具体的に描きながら、広く国民にはどのような能力が必要か、社会を創造し先導するためにどのような人材が必要かについて議論を進め、その成果は「Society 5.0に向けた人材育成～社会が変わる、学びが変わる～」にまとめられました。文部科学省は、来るべき新しい時代を創るため、施策の推進に全力を尽くしてまいります。

文部科学行政の推進のためには、国民の皆様の御理解と御協力が不可欠です。本白書が幅広く活用され、皆様の理解を深めていただく一助となれば幸いです。